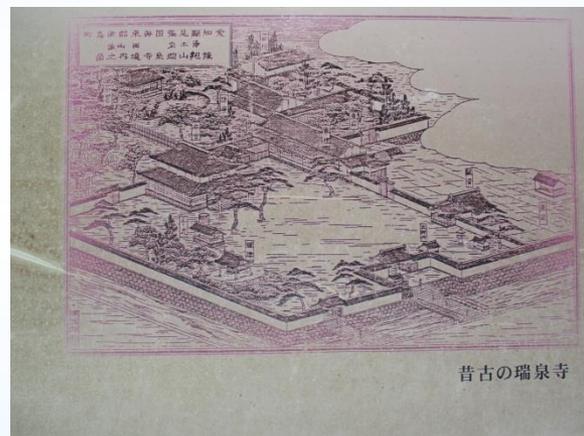


良王君と尾張津島天王祭



浪合神社 尹良親王を祀る 墓所は円墳



*津島のまちの物語



※良王伝承

『浪合記』

津島をめざした良王君とその家来たちの物語。

現存する『浪合記』は宝永6年（1709）に尾張藩士の天野源蔵信景が高須藩で書き写したとされている。

後醍醐天皇 — 後村上天皇
— 護良親王
— 宗良親王 — 尹良親王 — 良王君 — 良新（良王弟？）
(信濃宮) 大龍寺 瑞泉寺 氷室神主家

* 浪合記の背景



良王君が四家七党の武士たちに守られ、信州・三河から津島（奴屋城）に入るまでの話

※ 柳田国男 『東国古道記』
伊良 ユキヨシ様「旅」の神様
ユキヨシ信仰

津島御師たちは『ユキヨシ様』を旅人の道中安全を守る守護神へと変化させ、山間に広く分布させていった。これに加えて、浪合で戦死した南朝に対する御霊信仰が結び付き、伊良親王なるものが出現したと考えられる。



*浪合記に描かれた良王君（1）



奴野城へ

良王君、尾州津嶋の大橋定省の奴野城へ入りたまう。

永享七年十二月二十九日、良王君、尾州津嶋に入御。四家七名字、宇佐美、開田、野々村、宇津宮の十五人がお供である。兵糧が無くなり、一会村（原注：今の市江村）が米五十石余りを献上。

雑煮のはじまり

永享七年（1435）十二月二十九日、良王、津嶋天王の神主の家に渡御。七名字の者共が神楽を奏した。

同八年正月元旦、雑煮を良王に差し上げる。魚無し。伊勢蛤をあつものとする。御飯は、半白米であった。汁物は、尾張大根の輪切り。なますは、小鯛の干したものに大根を削ったものを入れて差し上げる。この年以降、流浪は無し。

*浪合記に描かれた良王君（2）

尾張津島天王祭

尾州津嶋祭は、舟を飾り、十一党の家紋を描いた幕を引く。同国佐屋村に、台尻大隅守という剛の者がいて、良王の敵であった。この祭の始まりは、台尻を討ち取るための計策であった。

天王社の祭の時、大隅守は一族を催し、舟を飾って津嶋に押し渡って来た。十一党の舟のうち十艘は津嶋にあり、一艘は市江村にあった。

大隅守はこの計略を知らず、一族を一艘の舟に乗せて祭を見ていた。前後から台尻の舟を取り巻いて、鬨の声をあげて大隅守の舟を討ち沈めた。大隅守の一族は残らず討たれ、水に溺れて死んだ者が多かった。

「後世に至るまで『ダンシリ討ち』と囃すように」との良王の命によって、毎年囃子が変わることはない。

*浪合記に描かれた良王君（3）

良王君に従った人々

○ 蓮台寺某阿

相模国藤沢の遊行の弟子。良王の御供で尾州津嶋に居住した。蓮台寺を建立。

○ 吉野から尹良親王に従った僧

天王の社僧となった四筒寺。明星院、実相院、宝寿院、観音院は良王の祈願所。

○ 一品征夷大將軍尹良親王

応永31年（1423）8月15日、信濃国大河原に於いて逝去。大龍寺殿と号す。尾張国海部郡門真庄津嶋天王社の境内にある若宮。永享8年（1437）6月15日、十一党の者が社を建てて祀った。津嶋の大龍寺は、親王の御菩提所。

○ 良王君

明応元年（1492）3月5日、逝去。御年78。瑞泉寺殿。同3年3月5日、天王社の境内に社を建て、御前大明神と称する。



* 大龍寺所蔵三古文書と良王君

津島牛頭天王社（素戔嗚尊・武塔神）とのかかわり
牛頭天王は欽明天皇の時代、光を現す。神託に「我は素盞烏尊なり。この所にましまして、日本の総鎮守と成るべし」という。そこで、社を建てて崇め奉る。最初に現れて鎮座した場所を居守と呼ぶ。素盞烏尊は天照大神の御弟で、武塔天神とも申し奉る。

建徳元年（1370）正月25日、正一位を授け、日本総社と号す。牛頭天王、八王子、一王子を津嶋三所（三卿）という。弘和元年（1381）の冬、勅命を奉って、大橋三河守定省が造営したのが今の宮地である。



『信濃宮傳』 宝永5年（1708）天野信景・高木任久

『浪合記』 文化7年（1810）書き写す 長享2年（1488）

『井伊家文書』 寛政元年（1789）

* 尾張津島天王祭は牛頭天王を喜ばす祭

「西の八坂 東の津島」

牛頭天王信仰は、民衆の切実な願い。
疫病は牛頭天王の荒魂（あらみたま）が起こすと信じられていた。
荒ぶる神が優しい神（和魂にぎみたま）になれば、疫病を起さない。
牛頭天王を慰め、楽しませるようにしました。
その方法は読経・歌舞・音曲・走り馬など。

○素戔嗚尊が始めた 真野時綱『尾州津嶋天王祭記』

○後鳥羽上皇の時代に神のお告げ

『市江祭記』

○南北朝時代に始まった 津島神社・鉄燈籠の碑文

○永享8年(1436)台尻大隅守(黒宮)を討ち取った

『浪合記』

○『大祭筏場車記録』大永2年(1522)車楽舟の置物



神葎流し神事



朝祭



宵祭